

# 民報 ゆうばり

# 小森陽一講演会開催

## 安倍九条改憲を国民共同の力で断念させよう

### 「加憲」も「改憲」も、どっちも危ない！



10月15日(日)岩見沢自治体ネットワークセンターにおいて、全国「9条の会」事務局長・東京大学大学院教授の小森陽一さんを迎え、「憲法9条壊すな！小森陽一講演会」が開催されました。岩見沢市民をはじめ近隣の市町村から180名を上回る聴衆が参加し、

主催者を代表して、講演会実行委員長の小部喜雄さんの挨拶のあと、早速講演にうつりました。

【安倍首相主導の9条改憲案とは】自衛隊の存在を憲法上にしっかりと位置付け、「自衛隊が違

憲かもしれない」などの議論が生まれる余地をなくすべきである。そのために「9条1項、2項を残しつつ、3項を新たに

【9条の1項2項が無効化されると？】陸上自衛隊は、2012年から南スーダンで、インフラ整備などを目的とした国連平和維持活動(PKO)に参加していた。2016年7月以降、政府軍と

【本当に何も変わらないのか？】小森さんは、これは単に条文を加える「加憲」というのではではなく、憲法を壊す「壊憲」であると強調しました。「加憲となれば、『現存している自衛隊の存在を認めるだけ』という

安倍閣連法(平和安全法制整備法および国際平和支援法)を強行採決した。こうして自衛隊は「集団的自衛権の行使を可能にする安保法制」を背負った存在になった。その自衛隊について憲法で明言するということ、自衛隊が軍隊として機能する方向に道を開くということ。法律

反政府勢力の対立が激化する中、望むような活動ができずにいた。その上、安保閣連法に基づき、2016年12月から駆付け警護などの新任務まで付与された。しかし日報に「戦闘」と記載されるほど現地の治安が悪かったことが明らかになった。とうとう撤回命令が出た。安保法制を作ったけれども、9条の1項と2項が機能しているために、南スーダンから自衛隊が撤退しなければならなかった。つまり法律の条文が安保法制より優位に立っているためである。

【多くのの人に、安倍改憲の狙いを知らせよう】こうした政府の狙いを、マスメディアを通して国民に対して明らかにされていくことが非常に大きい問題であるとして、ならば、私たち市民の力で、こうした狙いを多くの人に知らせ、9条改憲阻止の勢力を増やしていく活動が益々大切になってくる。最後に、空知の9条の会・新婦人の会・労働などの団体からの発言を受け、講演会を閉じました。

# 第60回夕張市音楽発表会開催

第60回を迎えた夕張市の音楽発表会が10月14日、ゆうばり文化スポーツセンターで開催されました。主催は市教育委員と教育研究協議会で、共催は夕張音楽協会でした。

構成団体のユーパロ幼稚園、ゆうばりこのまちソング、ゆうばり小、夕張中、夕張高校、教育委員会、音楽協会が3回音楽発表推進委員会を開き、この日を準備してきました。



後半はゆうばり小学校の器楽演奏、夕

## 市民と野党の大きな勝利です!



日本共産党 夕張市議 くまがい桂子

今回の総選挙、解散の理由は、「安倍首相の加計・森友疑惑隠し」とテレビや新聞などでも報道されました。

さらに、作家の高村薫さんが週刊誌で「野党第1党がたつた1日で消滅するマンガみたいなこと、まともな国では起きませんよ」と書かれたように、市民と野党の共同が進む中で民進党から希望の党への分断がありました。

しかし、その中でも共産党は市民の皆さんとともに、野党共闘を進める大きな推進力を発揮した選挙でした。

たくさんの市民が願った「野党は共闘!」。北海道では12の選挙区すべてで野党共闘が実現し、私たちも選挙力から「選挙区は、市民と野党の統一候補、〇〇〇候補へ、比例は日本共産党へ!」と訴える、初めての選挙でした。

今回、私たちは市民と野党の共闘を成功させることを大方針に、日本共産党・立憲民主党・社民党の3野党が市民連合と7項目の政策合意を結び、協力・連携して選挙を戦った結果、立憲民主党が躍進し、市民と野党の共闘勢力が、改憲阻止勢力(日本会議を含まない立共社)となつて、38から69議席へと大きく増やしました。

日本会議を含む改憲勢力(自公とその補完勢力)は389から374議席へと減少しましたが、三分の二の大きな勢力です。しかし、自民党が得た比例票は33%(有権者比17.3%)なのに、全議席の61%の議席を得たのは、大政党に有利に働き、民意をゆがめる小選挙区制選挙のマジックです。6割の支持を得たわけではありません。

日本共産党は議席を後退させましたが、今後の国会論戦では、市民と野党で合意された7項目が、69人の国会議員によって、実現に向けてたたかわれます。市民と野党の共闘は、ますます大きく発展します!



畠山 和也 「国会かけある記」 前衆議院議員

## たたかいはこれから

先日の総選挙で、日本共産党は議席を二十一から十二へ減らし、北海道でも比例区での議席を失うこととなりました。ご支持や応援いただいた多くの方の期待に応えられず、申し訳ない思いでいっぱいです。(法律上、この紙面でお礼を述べられないことをご容赦ください)

選挙期間中も、仕事をかけもちしないと生活できない青年や、親戚に自衛官がいて改憲に不安を感じている方などの話をうかがいました。毎日「安倍政権を終わらせてほしい」との声も寄せられました。これまでの私自身の活動も振り返り、切実な声に応えられる力をつけなければと思っています。

同時に、市民と野党の共闘が実現できたことは大きな財産でした。各小選挙区で結んだ協定書には「安保法制の廃止をめざす」「憲法九条の改定に反対」などが明記され、新しい議席も獲得できました。この流れを止めることなく、共闘で勝利した議員にもがんばってもらわなければなりません。

今回の結果をもって安倍首相は「国民から信任を受けた」と言い張るでしょうが、そんな言い分は許さない新たなたたかいを進めたい。憲法九条改悪には、反対の声が多数です。もっと根を張り、もっと結びつきを強める活動のなかで、安倍政権の暴走を止める流れは必ず大きくできると思っています。負けられません。読者のみなさんにも、引き続き日本共産党への応援を心からお願いいたします。「たたかいはこれから」です!